

ビワ生育情報

千葉県
平成22年10月号

平成22年7～9月の気象

平成22年7～9月の気象は表1に示した。7月の平均気温は全ての半旬で平年を上回り、月平均は26.7 で平年より2.2、前年より2.7 高かった。降水量は第2及び第6半旬を除く全ての半旬で平年を下回ったが、月合計は206mmで平年より43mm(26%)、前年より80mm(63%)多かった。日照時間は第1及び第2半旬を除く全ての半旬で平年を上回り、月合計が225時間で、平年より46時間(26%)、前年より99時間(79%)多かった。本年の関東地方の梅雨明けは、7月17日で平年より3日早く、前年より3日遅かった。

8月の平均気温は全ての半旬で平年を上回り、月平均は27.9 で平年より1.8、前年より3.3 高かった。降水量は第2半旬を除く全ての半旬で平年を下回り、月合計は47mmで平年より70mm(60%)、前年より114mm(71%)少なく、第2及び第3半旬を除く全ての半旬で降水量が0mmを記録した。日照時間は第2及び第3半旬を除く全ての半旬で平年を上回り、月合計は275時間で平年より55時間(25%)、前年より73時間(36%)多かった。

9月の平均気温は第6半旬を除く全ての半旬で平年を上回り、月平均は24.6 で平年より1.5、前年より3.1 高かった。第1～3半旬の期間の平均気温が27.1、第4～6半旬までの期間の平均気温は22.1 であり、約5 の気温差であった。降水量は第2、第5及び第6半旬で平年を上回り、月合計は268mmで平年より52mm(24%)、前年より181mm(208%)多かった。日照時間は第6半旬を除く全ての半旬で平年を上回り、月合計は198時間で平年より52時間(36%)、前年より37時間(23%)多かった。

表1 平成22年7～9月の気象(館山測候所調べ)

月	半旬	平均気温()			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7	1	25.6	22.8	22.2	35	36	10	17	21	7
	2	24.9	23.6	23.6	73	36	8	19	23	14
	3	26.3	24.3	24.0	23	32	0	27	25	36
	4	27.5	24.7	24.6	0	25	21	59	28	24
	5	28.4	25.3	23.8	0	20	64	56	33	14
	6	27.2	25.9	25.3	77	22	24	46	44	31
月平均/計		26.7	24.5	24.0	206	163	126	225	179	126
8	1	28.6	26.2	24.2	0	18	4	43	37	22
	2	26.8	26.2	26.4	45	17	62	30	37	24
	3	27.6	26.3	25.3	2	18	39	30	36	26
	4	28.4	26.2	24.4	0	20	0	46	35	52
	5	27.7	26.0	24.8	0	21	4	55	35	35
	6	28.2	25.6	22.8	0	25	53	71	40	44
月平均/計		27.9	26.1	24.6	47	117	161	275	220	202
9	1	28.2	25.1	22.5	0	27	1	52	31	24
	2	26.4	24.5	22.4	34	32	0	29	28	26
	3	26.6	23.7	22.1	2	35	39	40	25	22
	4	23.8	22.7	20.1	27	38	4	35	22	32
	5	22.4	21.7	21.5	52	41	0	31	20	30
	6	20.2	20.4	21.3	154	43	44	11	20	27
月平均/計		24.6	23.1	21.5	268	216	87	198	146	161

台風による被害を受けた樹の管理

10月1日現在、2個の台風が日本列島に上陸または接近した。強風によって樹が倒された場合には樹を起し、損傷程度に応じて枝を切りつめる。

起こせない樹はそのまま栽培を続けるが、管理しやすいように枝を整理し、倒伏によって根が地面に露出しているところは、覆土をして根の回復を図る。このときバーク堆肥と一緒に混ぜると、細根の再生が促され樹の回復が早い。白紋羽病の恐れのあるところは農作物病害虫雑草防除指針に従って防除する。

1 1月の管理

11月中旬には主要品種の開花が始まる。10月から引き続き行っている摘房・摘蕾は開花前に終わらせたい。アブラムシの防除は摘房・摘蕾の終了後に行う。

摘房・摘蕾

11月から12月にかけて摘房・摘蕾を行う。摘房では1樹の全新梢数の半数の枝に花房を残す。発育不良の花房、混み合った花房等の不要な花房を間引いて1樹内の花房数を調整する。

摘房をすると、残した花房が充実するので、開花、結実及び幼果の初期生育が良好に進み、品質の揃った果実を生産することができる。また、樹内の花房数が少なくなるので翌年の摘果作業が軽減される。

摘房と同時に、残した蕾を摘蕾する。摘蕾では花房基部から3段目までの小花梗枝(花房の枝)の中から充実した2段を残して他をかき取り、花房内の花数を調整する。摘蕾は蕾の充実を促すので摘房と同様の効果がある。花房の長さが3～5cmの時に摘蕾するのが最も有効で、開花期の延長を図ることができる。寒害を受けやすい園ではこの時期を逃さないように早めに摘蕾を行う。

アブラムシの防除

ビワに寄生するナシミドリオオアブラムシは緑色大形のアブラムシで、ビワの葉裏の主脈に沿って加害する。寄生した葉は紅(黄)葉し、次々と加害しながら繁殖していくので短期間のうちに、甚だしい落葉を見ることがある。また排泄物はすす病を誘発する。

防除は発生状態を見て随時行うが、発生初期に行うのが効果的である。11月はナシなどから移ってきて繁殖期に入るので、この時期の防除は春の発生を抑えるために有効である。防除に当たっては、農作物病害虫雑草防除指針に従って行う。

樹及び花房の発育

花房の発現期は表2に示した。「楠」が9月16日で平年より2日、前年より4日遅かった。「大房」が9月5日で平年より14日、前年より18日早かった。「田中」が9月9日で平年より6日、前年より5日早かった。「楠」を除いて平年より早いのは好天候により春枝及び夏枝の伸張が早く停止したためと考えられる。また、花芽数は平年より多く、今後の摘房・摘蕾による花房数の調節が重要である。

夏枝及び秋枝の発生は平年よりやや多く、樹の生育も順調である。

表2 花房発現期(暖地園芸研究所)

品 種	本 年 (月.日)	平 年 (月.日)	前 年 (月.日)
楠	9.16	9.14	9.12
大 房	9. 5	9.19	9.23
田 中	9. 9	9.15	9.14

平年：1983年～2009年の27年間の平均

【問合せ先:千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】

果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産者向け情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nousui/nourinsuisan/nourinsuisan.html>